

いい加減抱えきれないから、誰でもいいから聞いてくれ

三猿

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ホントに誰でもいいから、俺の抱えてるものを吐き出させてはくれないか？

目次

幼馴染	1
I トンネル	6

幼馴染

ちよつと怖い話みたいなモンなだけどさ。

俺が小学校の4年生の頃に、体験した話を聞いて欲しいんだよ。

俺には仲のいい幼馴染が3人いた。幼馴染の3人は同じ保育園の出身で、学校の奴らからアルファベットを習いだしたからか、名前のイニシャルをあだ名にするのが流行ってた。

特に仲の良かった俺ら4人組は、苗字のイニシャルが全員Sだったからか、まとめて「4S」って呼ばれることが多かったんだよ。

で、その4Sメンツってのは仲が良かった上に、家が全員近所だったわけだな。

まあそうなつてくるとガキの遊び場なんて、公園か、誰かの家、あとは近くの林に作った秘密基地位なもんでさ。

その日も、いつものように林にある秘密基地を拡張する為に、つて名目で土遊びをしてたんだ。

小学校の帰り道に家に帰らず、荷物は1箇所みんなまとめて置いて、日が暮れる頃には解散する。ある種のルーティンとも言えるいつも通りの光景だった。

でもさ、その日は小学生の俺らからしたらなかなかゴツイ木、まあ今となつちや間伐されるだろう小径木って分かるんだが、とにかくとある木が秘密基地拡張の邪魔をしてたんだよ。

そしたら4Sの中の1人、あーまあ仮に【鈴木】ってことにするか。鈴木君がさ、自宅にノコギリあるから取ってくる。って言って、ランドセルとかの荷物はそのまま家に帰ったんだ。

で、俺らは俺らで、鈴木君が戻ってくるまで他のことしてたんだけど、中々戻ってこねえのよ。そんでふと見たら鈴木君の分の荷物が無くなつてて、ぽっかりその部分にだけスペースが作られててな。

まあ、この時は急用が出来て帰ったんだろう。なんて、いう風に俺を含めた他の3人も勝手に解釈して、俺らもその日は解散した。

翌日、小学校特有の集団登校つてのが俺の地域にもあったから、そ

の集合場所に行ったら鈴井君が来てねえのよな。

俺よりはいつも先に来てたはずだからおかしいな、寝坊かな？ なんて思ってたなら、集団登校の班長の6年生が出発するぞくなんて呑気に言うもんだからさ、思わずまだ、鈴井君来てないよ？ なんて言ったのよ。

そしたらさ、班長だけじゃなくて、4Sの他の2人を含んだ班員全員がさ——

——鈴井君って誰？ ——

——って、無表情で口を揃えて言うんだ。

いやあ、あの時はビビったぜ。すわドツキリか、なんて頭が働くことも無くコレは追求したらやばいって、本能的に悟った、つてのはカッコつけすぎかな。

でも、あの時のみんなの目、声音、表情、今でも覚えてるが、なんか普通じゃなかったんだよ。上手く言葉にできなくて悪いけど、ガキの頃の俺はよく漏らさなかったな。なんて感心する程度には怖かった。

まあとにかく、その場ではなんでもない、なんて流して学校に向かったんだよ。

クラスに行けば席があるはずだ。なんて思いながらな。

で、クラスに入るといつも俺らに纏めて挨拶する元気なやつがいる訳よ。4Sおはよー！ なんて感じにな。

だけど、その日に限って、というか、その日からソイツは「3S」おはよー！ って、言ってくるようになったんだ。

慌てて鈴井君の席を確認した。

あったよ。鈴井君の席があった位置に、鈴井君の1つ後の名簿番号のやつの席が。

クラスから席がひとつ減ってたんだ。

俺は怖かった、親友、と呼べるだろう幼馴染が消えたこと、それに誰も何も言わないどころか、名前を出したらソイツ誰？ だぜ。笑っちゃまうよな。歯をガチガチ鳴らしながら震えて学校が終わるのを待った。

で！ だ、聞いて欲しいのはここからなんだけだよ。
前置きが長くて悪かったな。

その日の下校の時に、俺は4Sの他の2人を置いてちゃっちゃと家に帰った。その後鈴井君の家を訪ねたんだ。

家の形、屋根の色、表札、それら全てが記憶と合致した。

良かった！ 鈴井君がいる！ って思ってたインターホンを鳴らしたんだ。

中からでてきた大人の男だった。

びつくりしたんだよ。なんせ、鈴井君の家はたしか、祖父母と鈴井君しかいないと知っていたから。両親はどこに行ったかは分からない。死んでたのかもしれない、蒸発してたのかもしれないねえ。ガキの頃には友達のお家事情に興味もなかったし、そういうもんだと思ってた。

まあ、その出てきた大人の男がな、こつちを見下ろしながら、ここやかにウチに何か用かな？ っていうもんだから。

俺は意を決して鈴井君、今回だと下の名前だったんだが、まあ便宜上鈴井君と言うか。

鈴井君はいますか？ って聞いたんだ。

そしたらその男は眉一つ動かさずにこう言った。

——まだ覚えていたんだね——

悲鳴が口から漏れたんじゃないか。喉が異様に渴いて、冷や汗が吹き出たのを覚えてるよ。

すぐさま俺は駆け出した。逃げなきゃって思った。

でもガキの俺に逃げ場なんて思いつきやしなかった。

だから家に帰ったら布団にくるまって、ガタガタ震えて目をギュツと閉じてたさ。

途中、母さんが晩飯に呼びに来たりした気がしたけど、そんな事も構わず布団から出なかった。

次の日には学校にいけど、布団引っぺがされたけどな。

渋々と布団から出て、戦々恐々としながら集合場所に向かう。

道中に、前日の鈴井君の家にはいた男が居た。

アイツはニツコリ笑って、おはよう。昨日は大丈夫だったかな？
なんて聞いてきた。

俺は誤魔化さなきゃダメだ。って思った。

・おはようございます？ 昨日？

なんて、とぼけた振りをしたんだ。

今思えば馬鹿な事だと思うよ。もう少しいい誤魔化し方があった
だろうってな。

でも、それが正解だったらしいんだ。

何故かって？

それはあの男が、口角をニツコリと釣り上げた気持ちの悪い笑みで
こう言ったからさ。

——ようやく忘れたみたいだね

ゾツとしたぜ。この話の中で何度驚いた恐怖したってワードが出
たかなんて覚えちゃいねえが、少なくとも1番怖かったのはこの時
だ。

こいつが元凶なんだ！ そう思っても、鈴木君を助けなきゃ！ そ
う思っても、俺の脚は竦んだ。声が、手が、足が、唇が、恐怖に振る
えて真実を誰かに話すのも、助けを求めるのも、怖かったんだ。

アレからもう何年も経ってる。だけど、あの男とだけは何故か、1
週間に一度は玄関先で会釈する程度にはエンカウトするんだ。ほ
かのご近所さんなんて滅多に見ないのにな。

それは俺が就職してからもだ。夜勤終わりに家に帰ると、まるで朝
早くの散歩ですと言わんばかりに玄関から出てきたり、昼勤終わりに
家へ帰ると、道の掃除をしてましたとばかりにほうきを持って、俺を
見る。

まるで監視されてるみたいで気味が悪いよ。

だから、俺は今までこの話を誰にも話したことは無い。今日が初め
てさ。

じゃあなんで話したんだって？

ソレは俺がようやく実家から引越して、少し離れたところに一人

暮らしすることになったからさ。

さすがに引越しまですりやあ大丈夫だと高を括ってな。

それに、こんな事一人で抱えて生きるにや重すぎんだよ。だから誰でもよかったから聞いて欲しかった。それだけさ。

ああ、そうそう。この話、分かっているとと思うけど登場人物の名前以外は全部実話なんだぜ？

信じる信じないはお前次第だ。

騙し討ちみたいな真似で悪いけど、これを聞いたお前はもう道連れだからな。これからなんか変なことあつたら俺に教えてくれよ。俺もまた、アイツが現れたら教えるからよ。

じゃあな

I トンネル

愛知県にあるトンネルの噂を知ってつか？

ああ、いきなり話しかけて悪かったな。暇そうに見えたからよ。時間あるか？ちよつとした世間話なんだけどき。

実際の地名言つて、お前がソコに行つたらヤベえから、イニシャル使うけどよ。

愛知県某所にあるI トンネルつて所があるんだ。まあ、知ってる人は知ってる有名な心霊スポットだよ。

そこにさあ、俺この前行つてきたんだよ。女2人と男3人の友達とスクーターでな。

それぞれがそれぞれのスクーターに乗つて、どうせなんもないやろおなんて笑いながら、トンネルに皆で入つていつてき。

で、まあ一応なんかあつた時の為に、女を男で挟む感じにすつかーつていう隊列？みたいには、女の両サイドには男が着くようにして、トンネルを抜けてつたんだよな。

そしたらさ、俺は1番右側走つてただけど、トンネルの真ん中辺りで女の声が聞こえたんだよ。勿論友達の声じゃなくて、オバサンみたいな若くない感じの声が呻き声みたいな聞こえて、ヤベえつて思つて左側のやつになんか聞こえる！女の声！え、ヤベえよ！帰ろ！つて言つただけど、ソイツにはなんも聞こえなかつたみたいで笑われてさ。

で、トンネルを何とか抜けきつて、明るいのところに着いたらさ、ヤベえヤベえつて思いながらみんなに女の声聞こえたよな!? つて横見たらさ女友達の片方居なくなつてたんだよね。

ブレーキかけた音も聞こえなかつたし、無論倒れたりしたらでかい音鳴るだろうし分かる。そんな音は間違ひなく鳴つてなかつた。他の奴らもそう言つててさ。

でも、居なくなつてたんだ。他の奴らに聞いたら男1人と、女1人は俺と同じオバサンのかはわからんけど女の声聞こえたつて言つて、ヤベえつてなつて。

でも逃げるにも、消えた女友達は探さねえと行けねえってなって、今度は全員ピツタリくつついた上で、スクーター引いてトンネルの来た道戻ってさ、いなくなつたやつ探したんだ。

けど、急ブレーキかけた跡も、スクーターも女友達も、そいつが持つてた物すら何も見つかんかった。

電話にかけても出ないし、いよいよ警察に連絡してさ、親御さんにも連絡して、全部話して、行方不明届けも親に出してもらってさ、そんな時に警察の人が言ってただけさ、テレビにもあの、イトンネルは取り上げられてる、だから有名な肝試しスポットになつてる、それからアソコで行方不明になつたり、変死体で発見されたりする人も多くなつたって、だから絶対に二度と行くなつて。

警察の人もだいたい参つてるみたいで、疲れた顔してたけど、俺らが生きて帰って良かったって、言ってくれてさ。

いいか？イトンネル、あー新しい方じゃなくて古い方な？旧イトンネルには絶対行くんじゃないぞ。

あそこは本当にナニカが居る。